

# 臼杵市公立学校のあり方検討委員会としての考え方

臼杵市独自の取り組みである「小中一体教育」の成果を生かし、今後の少子化や学校施設の老朽対策も視野に入れ、それぞれの中学校ブロックを基本とした「小中一貫校」(施設一体型、施設隣接型、施設分離型)の設置を進め、更なる教育効果の向上を図っていくことが重要と考える。

また、学校施設については、建設から年月が経過している校舎もあることから、教育環境の改善に取り組んでいただきたい。特に、市浜小学校及び西中学校に関して、早急に対策を講じていただきたい。

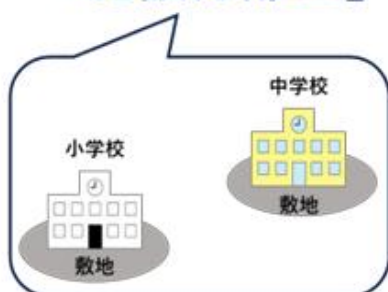
## <用語の説明>

### 小中一貫校:

小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育を行う学校です。組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態で、それぞれの学校に校長、教職員組織があります。

小学校と中学校の校舎の設置状況により、「施設分離型」や「施設隣接型」や「施設一体型」と呼ばれる形態があります。  
【施設形態は、「小中一貫した教育課程の編成実施に関する手引き(H28.12.26 文部科学省)」を参考】

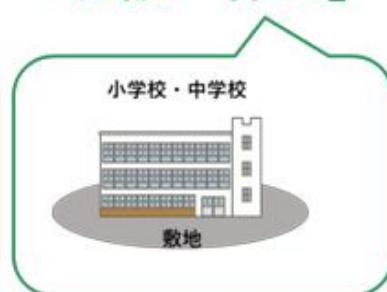
#### 「施設分離型」



#### 「施設隣接型」



#### 「施設一体型」



### 義務教育学校:

義務教育の段階である小学校から中学校までの9年間を一体的に管理・運営する学校です。一つの学校なので、一人の校長で、一つの教職員組織となります。

また、9年間の区切りを5-4年、4-3-2年に区切る(ユニット制)など、学校ごとに異なります。

これまでの臼杵市の「小中一体教育」は「施設分離型小中一貫校」の教育とほぼ同じ内容と言ってよいものです。



## 臼杵市公立学校のあり方検討委員会としての 小中一貫校の設置に向けた取組への提言(案)

臼杵市独自の取り組みである「小中一体教育」の成果を生かし、今後の少子化や学校施設の老朽対策も視野に入れた「小中一貫校」(施設一体型、施設隣接型、施設分離型)の設置を早期に進め、更なる教育環境の改善に努めていただきたい。

### ◎小中一貫校は現在のブロック単位を基本として設置

- 野津中ブロックは野津中校舎を活用した施設一体型
- 東中、南中ブロックは施設分離型
- 西中ブロックは施設隣接型と施設分離型の併用
- 北中ブロックは施設分離型

※児童生徒数及び施設の状況を踏まえ、将来的には各中学校ブロックの施設一体型をめざすとともに、義務教育学校の設置についても視野に入る。

### ◎その他

- 西中の校舎に関して、建て替えを含む施設の改修を早急に対応していただきたい。その際、隣接する市浜小学校の校舎も、同一敷地での建て替えについて検討していただきたい。